

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	15
施設名	葛飾区東新小岩保育園
施設所在地	葛飾区東新小岩4-7-13
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然
～身近な自然の観察画～

<テーマの設定理由>

普段の保育の中で、経験画など絵を描いて表現することを行っていた。
身近な日常にある自然に触れるだけでなく、じっくりと観察し発見や気づきを絵で表現する経験を重ねていく。その中で、更に新しい気づきや描くことへの興味や関心を高めていってほしいと考え、このテーマにした。

2. 活動スケジュール

R7年5月：テーマを決定
R7年6月：必要物品実施準備
R7年6～8月：実施（内訳：6月3回、7月1回、8月1回）
R8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

5歳児室でグループ（3～4人）に分かれ、各グループごとに野菜の苗や虫、果物などを手に取って観察する。
観察して気づいたことをグループで伝え合う。
細かいところまで観察できるよう虫眼鏡を用いる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

R7.6.4 ピーマン・ナスの苗

子ども達が植えて育てているピーマン・ナスに親しみがあったので題材とする。葉の違いなどグループで話し合いながら描いていく。

R7.6.5 青虫

クラスで飼育している青虫を題材とする。目だと思っていたのが模様だったと気づいたり、虫が苦手な子が描くことを目的としたことで観察できたりもした。

R7.6.23 とうもろこし

季節の題材を選ぶ。これまではクレヨンを使っていたが、固形絵の具を使用する。コーンの粒感なども表現して描くことができた。

R7.7.28 枝豆

子どもたちが収穫した枝豆を題材とする。土から抜いたものをそのまま描いたため、横に寝かせた状態で難しかったようだが、普段見えない根の部分を観察し、細さ・質感なども表現しようとする姿があった。

R7.8.20 パイナップル

葉や実の部分が複雑な形状、模様で色の選択にも迷う姿が見られた。虫眼鏡で観察したり、色を混ぜてみたり工夫していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

どの部分から描いたらいいのか、最初は戸惑っていて、例えば、鉢から描き始めたことで肝心な部分が描ききれなかったりしたので、アドバイスをする。経験を重ねていく中、一番描きたいものをクローズアップして描く姿が見られ、バランスも大事だが描きたいものを真ん中に描くことなど、具体的に伝えていく（迷ったり、戸惑っている子への声掛けで基本的には気づきを捉えて褒めていく）。ダイナミックな表現へと変化していく子も見られた。子ども同士のグループ内の話し合いでは、一人では気づかなかったことを知り、描くことへつなげていく姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

虫眼鏡で観察したり経験を重ねていく中で、自分で考えたり友達との会話の中でヒントを得たり、子どもたちからの気づきが増えていった。描きたいものをどこから描くのか、大きさは…など戸惑いがあったが、見栄えを意識するのではなく、気になったところ、興味のあるところを描くことへと変化していった。見え方が違うから出来上がりも違うということにも気づき、お互いの作品を認め合う姿もあった。